茗渓

特集

Ⅰ　一般社団法人　茗渓会　第１回
　　平成24年度　定時総会

Ⅱ　計算機の中に科学を見る

グラビア…01
特集Ⅰ　一般社団法人　茗渓会　第1回
平成24年度　定時総会…02～11
挨拶　理事長　西野虎之介…02
新任の挨拶　新理事長　江田　昌佑…03
学長祝辞　筑波大学長　山田　信博…04
出席代議員一覧…05
定時総会議事（要旨）…06～07
決算報告…08
平成24年度　事業計画　予算書…09
副理事長紹介　委員会一覧…10
懇談会から…11
特集Ⅱ　計算機の中に科学を見る…12～15
茗渓学園だより…16
平成24年春の叙勲　おめでとうございます…17
桐の葉のつどい…17～19
著書紹介…20～21
追悼録…21
本部だより…22
編集後記…22

meikei
夏
2012
No.1074

一般社団法人茗渓会第１回
平成24年度　定時総会

平成24年5月24日（木）茗渓会館にて

第1回定時総会

平成24年5月24日（木）　茗渓会館にて

挨拶

一般社団法人　茗渓会
理事長　西野　虎之介

本日は、お忙しい中にも関わりませず、全国からご参集いただきまして、誠に有難うございます。

社団法人茗渓会は、公益法人制度改革に伴い新しい法人形態と致しまして、昨年の通常総会において「一般社団法人」を選択し、内閣府へ申請致しこのほど認可され、本年四月一日付けを持ちまして新発足致しました。

本総会終了後ご承認いただきました理事・監事による第一回理事会を開催し、その席上で新三役を互選していただきます。

なお、いままで三つの関連法人では、理事長、事務局長をそれぞれ同一人が兼ねておりましたが、新制度の趣旨を踏まえまして、各法人ごとに、別人格の正副理事長、事務局長等を置くことに致しました。

私は新体制発足を機会に、茗渓会理事長を退任することを決意致しました。顧みますと、私は前理事長の鵜川昇先生がご逝去された後を引き継ぎまして、この〝法人見直し〟の最初から、今日、新法人が発足するまでの間、理事長職を務めさせていただきました。不束な私ではございますが、当・茗渓会の歴史的な転換点を無事に越えさせていただけましたのも、関係するみなさまがたのご指導、ご鞭撻があったればこそと存じます。この職を全うさせていただきまして本当に有難うございました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

また、当・茗渓会が新法人として「一般社団法人」の道を選択いたしましたことはいままで以上に、筑波大学の同窓会としての方向性を強固なものとし、大学当局からも更なるご指導、ご助言の度を一段と強めて頂きまして共存共栄の道を歩ませて頂きたいと念願するところでございます。しかし、当・茗渓会が新体制に衣替えしたとは申しますものの、継続して解決していかなければならない課題も数多く残されております。その点に関しましては、微力な私ではございますが、茗渓会の明日への発展のために皆さまと共に引き続き尽力させていただこうと思っております。本総会の趣旨をご理解いただきましてよろしくお願い申し上げる次第でございます。

本日は誠に有難うございます。

附属校の代議員　筑波大の代議員

筑波大の代議員　北海道の代議員

北海道の代議員

大阪府生まれ
四条畷中学（旧制）でラグビーを始めた。昭和30年東京教育大学体育学部卒業後、東京の私立城北高校でラグビー部を指導して日本一へと導いた。筑波大学体育学部教授、体育専門学群長、副学長を経て、鹿屋体育大学長としてトップアスリートサポートシステム（TASS）を創設し、柴田亜衣選手がオリンピックの水泳800mで金メダルを獲得する素地をつくった。

一般社団法人 茗渓会

新任の挨拶

一般社団法人　茗渓会
新理事長　江田　昌佑

今日、一般社団法人茗渓会第一回社員総会（代議員総会）が開催されて、新しい理事・監事が選任されました。

そして、先ほど新しい理事によります第一回理事会におきまして、私が新法人の代表理事（通称理事長）に選定されました。同時に業務執行理事として副理事長二人・常務理事一人も選定していただきました。どこまで皆様のご期待に添えるかと思います時、身の引き締まる思いが致す次第です。

大学当局をはじめ、理事会の皆さま、代議員の皆さまをはじめ、関係するすべての方々のお力添えなくして、到底、この職責を全うすることは出来ないところと存じます。どうぞ、ご支援ご鞭撻のほどを心からお願い申し上げる次第であります。

当・茗渓会は百余年の長い歴史と伝統に裏付けされ、諸先輩方の継承と積み重ねの賜ものと存じ、深く肝に銘じ、感謝するところであります。

西野理事長のご挨拶にもありましたように、先輩方のご努力の成果に合わせながらも、新人会員への対策、公益、共益等の諸事業の更なる展開や、ＩＴ時代に見られますような、新しい時代からも要請されております多くの課題に向けましても、組織の強化を図りながら問題解決にあたりたいと考えております。

また、私どもに理解を示して下さる多くの方々に対し、更なる理解の輪を広げ、全国各地域、職域において活躍されておられる会員の皆さま方の自主性を一層強められるように、活動内容も本部との緊密な連携を一層図りながら、社会的にも認知度を高める努力を図って参りたい所存です。あわせて外部の方がたからのご後援を賜る体制作りに意を注いで行かなければと思うところであります。

兎に角、大海原に漕ぎ出した小舟のようなものではございましょうが、力を合わせて新たなる方向を目指して、新たなる展開を図って参りたいと存じます。皆さまの更なるお力添えを賜りますよう、重ねてお願い申しあげまして私の挨拶と致します。

東北・関東地方の代議員

東北地方の代議員

東北地方の代議員

学長祝辞

国立大学法人
筑波大学長　山田　信博

伝統ある茗渓会の平成24年度定時総会が開催されましたことに対し、敬意を表しますとともに、日頃の筑波大学への多大なるご支援に心からお礼を申し上げます。

最初に、昨年の東日本大震災で本学も多大な被害を受けましたが、国や各方面からのご支援、教職員および学生の献身的な努力により本学の大学機能も順調に回復していることをご報告申し上げ、感謝の意を表したいと思います。

ここで、本学の大学力を発揮するために取り組んでおります改革のいくつかを述べさせていただきます。

まず教育ですが、その「実質化」と「質の保証」の向上を目指し、各種の教育用資産（「筑波スタンダード」、TA－TF制度など）も準備が整ってきています。グローバル社会で活躍する人材には、深い専門性と一定レベルの広い教養・スキルが求められます。そのため、新たな学類・専攻の創成ではなく、既存の教育組織に必要な改変を加えるとともに、「学位プログラム」に基づく教育システムへの移行の準備をしているところです。また、開学以来の大改革とも言える学期制の見直しを行い、平成25年度から2学期制を導入します。学生支援については、学生の「自立性」の涵養の観点を重視し、世界基準の学修成果が生み出せるような支援を行います。具体的には、留学を含む海外活動支援、留学生の生活環境改善のための支援であり、つくばスポーツアソシエーション（TSA）をはじめとする課外活動支援の充実、食堂の質の向上、学生と教職員の心身のケアの充実なども進める予定です。

大学における教育の基盤は知の集積とその上に産み出される新たな知です。そのためには高い水準の研究が展開されなければなりません。本学では、多数の潜在力のある優れた研究者・研究グループが活動していますので、個々の研究を互いに尊重することを基盤に、「学系」を廃止して新しい教員組織である「系」を設置し、全学的な研究支援制度として研究グループ認定制度と研究グループ登録制度を導入しました。また文部科学省チーム「ニッポン」マルチサポート事業では本学が関連分野のハブとして機能し始めていますし、本学が中心となって採択された国際戦略総合特区は様々な産官学連携研究活動のプラットフォームとして機能し始めています。「サイバニクスプロジェクト」、「藻類プロジェクト」、「がん治療プロジェクト」の活動やナノサイエンス、ナノテクノロジーにおけるつくばイノベーションアリーナ（TIA）の活動は衆目を集めるところです。

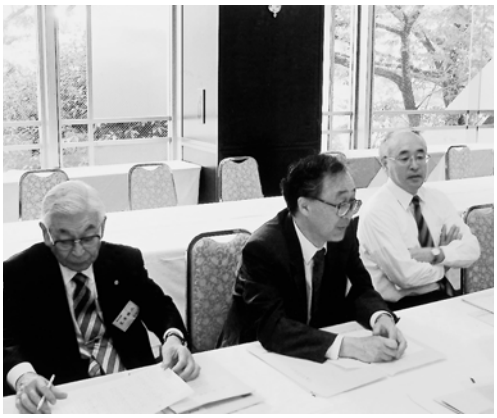
国際性については、G30プログラムが着々と成果を収めつつありますが、関連して本学の国際化の推進支援のために、教員の責務の支援、職員の国際化対応力の向上支援などを総合的に行う体制（グローバル・ラーニング・コモンズなど）の構築を計画しています。

本年はロンドンオリンピック大会とパラリンピック大会が開催されますが、女子サッカーのなでしこジャパン（サッカー女子ワールドカップドイツ大会で活躍した安藤　梢選手と熊谷紗希選手は本学の大学院生・学生）をはじめ選手や役員として多くの本学関係者が参加しますが、大いに活躍してくれると期待しています。

本学は、来年度に筑波大学開学40周年、前身校から創基141年を迎えます。本年度10月より記念事業を展開していきます。新構想大学として出発した本学が、未来構想大学へとバージョンアップして、世界的な「研究教育拠点」、「知の国際連携活動拠点」としてはもとより、つくばの「人材育成拠点」として、「産官学協働の拠点」として、そして「大学文化の薫る街の中心」としての自覚と誇りを持って邁進したいと考えています。今後も茗渓会の皆さまからのご支援をお願いする次第です。

最後に、茗渓会の益々のご発展を祈念して、祝辞に代えさせていただきます。

関東地方の代議員



関東地方の代議員

東北・関東地方の代議員

定時総会出席代議員一覧

（敬称略）

筑波大	大澤義明
	坪内孝司
附属校	日下部公昭
北海道	沖野隼夫
	大沼　寛
青　森	遠藤智久
岩　手	髙橋光彦
宮　城	河岸敏郎
秋　田	船木賢咲
山　形	小野庄士
福　島	鈴木弘文
茨　城	早川源一
	大沢　修
栃　木	田島一利
群　馬	茂木道弘
群　馬	佐藤　功
埼　玉	荒井修二
	奥谷多作
	矢嶋章司
	細田幸一
千　葉	青木　寛
	佐藤　宰
葛　飾	渡邉　悟
新　宿	浅井一郎
中　央	中村穎司
八王子	小島和雄
神奈川	嵐　實
	小山和夫
	佐々木悦子
	加藤充洋
山　梨	森屋政文
長　野	安藤善二
新　潟	永井成一
	小野寺　篤
富　山	高木三郎
石　川	久下恭功
静　岡	伊藤　宏
	杉本淳光
愛　知	鳥山　勇
	高須勝行
	林　誉樹
岐　阜	丹羽　章
滋　賀	豊田則成
三　重	寺田卓二
京　都	塩見　均
大　阪	佐藤隆一
兵　庫	折戸善信
	向田　茂
奈　良	藤善尚憲
和歌山	高田晴美
鳥　取	有田博充
島　根	松本弘光
岡　山	平田信彦
広　島	大辻　明
山　口	鍋井邦久
徳　島	木村　潤
愛　媛	藤井俊夫
佐　賀	東島敏隆
長　崎	浦下悦二
大　分	鈴木基史

一般社団法人 茗渓会 第1回 平成24年度 定時総会議事（要旨）

一般社団法人　茗渓会の第1回定時総会は、平成24年5月24日に茗渓会館において開催された。田中正造常務理事より、社員（代議員）総数110名のうち、出席60名、委任状による出席40名、合計100名の出席を得て、定款第17条第1項により成立した旨、報告があった。

最初に西野虎之介理事長から（P2参照）の挨拶があり議事に入った。

開会宣言

定款第15条により議長には西野理事長が就き、議長として定款13条に基づき開会を宣言した。

議長から、定款第19条により議事録署名人は議長及び出席した理事が署名することになっていることが告げられた。

議事

第1号議案　平成23年度事業報告及び収支決算報告、監査報告及び貸借対表、正味財産増減計算書並びにこれらの附属明細書承認の件

(1)　平成23年度事業報告の件

田中正造常務理事から、平成23年度事業報告について資料に基づき次のような説明があった。

1　会員状況　登録数　52、852名（平成24年3月31日現在）

田中正造　常務理事

2　平成23年度通常総会は平成23年5月26日に開催した。

3　理事会は年に10回開催した。

4　総務部会は、会費増収対策と財政基盤の強化を図った。20支部の総会に理事を派遣した。

5　大学支援部会は、学生活動の支援事業、諸行事への支援（卒業式、学園祭、茗渓・筑波グランドフェスティバル、ホームカミングデー、やどかり祭＝宿舎祭等）大学の学群長・学類長との懇談会（大学との連携強化、卒業生の茗渓会入会促進対策等）を行った。

6　公益事業部会は、①キャリア情報の提供・就職ガイダンス講師派遣・教職受験対策研修会　②公開講座（筑波で2回、東京で10回連続の講座）等を開催した。また、9月10日には追悼のつどい、11月25日には第10回の顕彰式を開催した。定期刊行物の季刊誌「茗渓」を年4回（合計100、145部）発行した。

7　関連法人部会は、筑波学都資金財団、㈶茗渓学園及び茗渓会館経営に関する諸問題の解決に協力した。

8　茗渓三法人財務審議会は、年間5回開催し、「新法人発足に向けて」を答申した。

(2)　平成23年度収支決算書及び監査報告承認の件

富田哲朗経理担当から資料に基づき詳細な報告がされた。（項目別の収入及び支出はP8の収支計算書を参照）

富田哲朗　経理担当

続いて、高橋三郎監事より監査報告があった。

議長が第1号議案について質問と意見を求めたところ、渡邉悟代議員（葛飾62筑博農）から次のような質問があった。

［質問事項］　①最近2年間に会費を納入した会員を「甲会員」と呼ぶが、そのなかに占める筑波大卒業生の数　②収支計算書の⒅雑支出の訴訟費用533千円についての説明　③今後、本会が支出する「公益目的財産額について」

［回答］　①について「甲会員」は全体で20、942名、うち筑波大卒業生は10、346名、②については貸借関係がある第一生命保険株式会社との地代をめぐる訴訟費用、③についてはこれから7年間、毎年1、944万円を支出する。

議長は、第1号議案の一括審議を諮り、賛成58名　委任状による賛成40名　合計98名で承認された。

関東地方の代議員

関東地方の代議員

関東地方の代議員

第2号議案　平成24年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

田中正造常務理事が資料（P9参照）に基づき平成24年度事業計画(案)を説明し、続いて富田哲朗経理担当が資料（P9参照）に基づき平成24年度収支予算(案)を説明した。

西野議長が質問・意見を求めたところ、渡邉悟代議員（葛飾　62筑博農）から、①職員への給与手当が公益目的支出に相当するのか。②助成金のうち公益目的支出710万円の内訳についての質問があり、①については「相当」する。②については、筑波大学生への助成金200万円、公開講座210万円、顕彰180万円等であるとの回答があった。その後、採決に移り、第2号議案は賛成59名、委任状による賛成40名、合計99名で承認された。

第3号議案　会費規程改訂(案)承認の件

資料に基づき高野力理事から説明がされた。

高野　力 理事

採決の結果、賛成59名、委任状による賛成40名、合計99名で承認された。

第4号議案　理事25名選任の件

田中正造常務理事から資料により理事候補者が紹介され、議長は各候補者毎に採決したところ、全ての理事候補者に対して賛成58名、委任状による賛成40名、合計98名、棄権1名で承認された。

承認された理事は左記のとおりである。

阿江通良	新井達郎	井口武雄
岩﨑庸男	鵜沢　力	江田昌佑
大勝信明	川田孝一	河本　武
北島瑞男	佐藤　忍	柴田　淳
庄司一子	高野　力	田中正造
西川綾子	西川　潔	西塚祐一
西野虎之介	平野正美	福岡一雄
堀内昭三	宮尾　徹	百瀬明宏
守屋正彦		

第5号議案　監事3名選任の件

田中正造常務理事が資料に基づき説明し、候補者1人ずつ採決したところ、賛成59名、委任状による賛成40名、合計99名で承認された。承認された監事は次のとおりである。

飯塚良成　　古藤昭子　　高橋三郎

議長から、報告のあと、総会を一時中断し新理事会。定款22条2項に基づき、理事長、副理事長、常務理事を選定し、その後報告する旨の発言があった。

報告

一般社団法人茗渓会設立登記の件

田中常務理事から茗渓会の一般社団法人への移行に基づいて設立登記したことが報告された。

続いて議長が閉会を宣言し、総会を終了した。

表彰

青森県支部元支部長　下山晃弘氏の長年の支部活動並びに本会に対する尽力に対して西野理事長から表彰された。

事務連絡

(1)　会員登録・会費納入状況の件

(2)　新入学・新卒業生の入会状況について

(3)　第11回（平成24年度）顕彰候補者推薦について（『茗渓』春号関連）

(4)　支部からの提出・報告・連絡文書について

(5)　茗渓関連法人の件

①　財団法人筑波学都資金財団

(ア)　筑波大学学生宿舎管理事務所

(イ)　筑波研修センター

②　学校法人　茗渓学園

理事長等選定結果報告

西野理事長から、第一回理事会で次のとおり選定された旨の報告があった。

新理事長に　江田　昌佑氏

新副理事長に　井口　武雄氏

新副理事長に　岩﨑　庸男氏

新常務理事に　田中　正造氏

（兼事務局長）

江田新理事長・岩﨑副理事長・田中常務理事から就任の挨拶があった。

終わりの言葉

田中正造常務理事から終わりの言葉が述べられ、懇談会の案内がなされた。

懇談会

会場を4階に移し、懇談会を開催した。

関東・中部地方の代議員

東京・関東地方の代議員

東京の代議員

平成23年度決算報告

貸借対照表

平成24年３月31日現在

単位千円

資　産	
Ⅰ　流動資産	
現金	60
振替貯金	52,816
当座・普通預金	223,869
流動資産合計	276,745
Ⅱ　固定資産	
特定資産	
満期共済金引当預金	42,300
退職給付引当預金	16,257
保証金引当特定預金	126,003
特定資産合計	184,560
その他固定資産	
土地	314,776
建物	754,107
構築物	7,025
機械装置	3,335
什器備品	1,956
定期預金他	93,483
その他固定資産合計	1,174,681
固定資産合計	1,359,242
資産合計	1,635,987
負　債	
Ⅰ　流動負債	
預り金	929
前受金	19,664
流動負債合計	20,592
Ⅱ　固定負債	
保証金	1,400,000
長期借入金	73,167
満期共済金引当金	42,300
退職給付引当金	16,257
固定負債合計	1,531,724
負債合計	1,552,316
一般正味財産	83,670
（うち当期増減額）	-1,173
負債および正味財産合計	1,635,987

正味財産増減計算書

平成23年４月１日から平成24年３月31日まで

単位千円

Ⅰ　一般正味財産増減	
1　経常増減の部	
1　経常収益	
①　地代収入	58,900
②　委託料収入	33,504
③　広告料収入	2,825
④　会費・入会金収入	37,999
⑤　寄付金収入	46
⑥　雑収入	1,683
⑦　満期共済金引当預金取崩	950
経常収益計	135,907
2　経常費用	
①　事業費	90,815
A　教育振興事業費	17,716
B　啓発事業費	3,354
C　出版事業費	17,675
D　共済福祉事業費	1,478
E　会館維持経営事業費	50,591
②　管理費	25,388
経常費用計	116,203
当期経常増減額	19,704
2　経常外増減の部	
1　経常外収益	
①　特定預金増加額	1
経常外収益計	1
2　経常外費用	
①　減価償却費	19,748
②　満期共済金引当金繰入	0
③　退職給付引当金繰入	1,130
経常外費用計	20,878
当期経常外増減額	-20,877
当期一般正味財産増減額	-1,173
一般正味財産期首残高	84,843
一般正味財産期末残高	83,670
Ⅱ　正味財産３月末残高	83,670

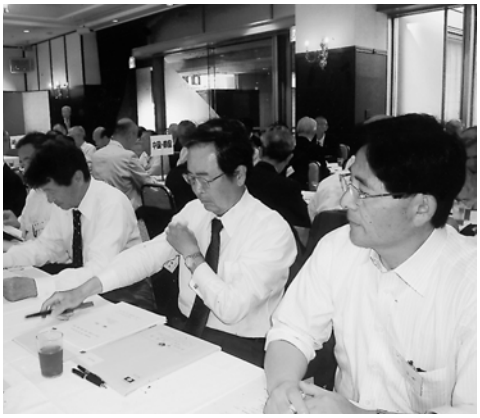
収支計算書

平成23年４月１日～平成24年３月31日

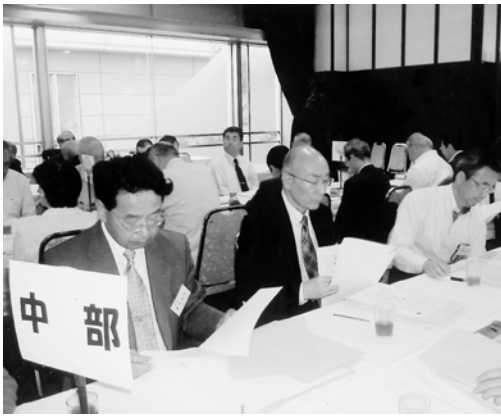
単位千円

Ⅰ　事業活動収支	
1　事業活動収入	
①　地代収入	58,900
②　委託料収入	33,504
③　広告料収入	2,825
④　会費・入会金収入	37,999
⑤　寄付金収入	46
⑥　雑収入	1,683
⑦　引当預金取崩収入	950
事業活動収入計	135,907
2　事業活動支出	
①　事業費支出	90,815
1　教育振興事業費	17,716
2　啓発事業費	3,354
3　出版事業費	17,675
4　共済福祉事業	1,479
5　会館維持経営事業	50,591
②　管理費支出	25,388
事業活動支出計	116,203
事業活動収支差額	19,704
Ⅱ　投資活動収支	
1　投資活動収入	0
2　投資活動支出	1,623
投資活動収支差額	-1,623
Ⅲ　財務活動収支	
1　財務活動収入	0
2　財務活動支出	16,500
財務活動収支差額	-16,500
Ⅳ　予備費	0
当期収支差額	1,581
前期繰越収支差額	254,572
次期繰越収支差額	256,153

中部地方の代議員



中部地方の代議員



中部地方の代議員

平成24年度　一般社団法人　茗渓会　事業計画

1．事業計画のねらい

(1) 本年度は一般社団法人への移行初年度にあたり、定款の変更、新組織体制のもとに新法人への移行を円滑に進めるための計画を実施する。
(2) 公益目的支出計画に基づいて事業の推進を図る。
(3) 財務審議会答申（平成24年２月24日）における財務状況の検証と新法人移行後の見通しをもって事業を展開する。

2．事業の目的（定款第３条）

会員相互の親睦及び互助並びに知徳の啓発を図り、併せて国立大学法人筑波大学の目的及び使命の達成に協力し、学術、文化、教育並びに社会貢献活動及び国際相互理解の促進に資することを目的とする。

3．事業の内容（定款第４条）

(1) 会員相互の親睦を図るための交流事業並びに会員の福祉を図るための共済に関する事業
(2) 定期刊行物その他出版物などの発行に関する事業
(3) 研修会、講演会、公開講座等公衆の教養向上と地域社会への貢献に資する事業
(4) 学術、芸術、社会貢献、国際相互理解等の顕著な活動に対する奨学、支援、表彰などに関する事業
(5) 財産の管理・運営に関する事業
(6) 教育の振興、普及活動に資する事業
(7) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業
(8) 前項の事業は、全国において行うものとする。

平成24年度予算書

平成24年４月１日～平成25年３月31日

単位千円

科目	予算額	内訳 一般会計	内訳 公益目的支出会計	内訳 地代会計
Ⅰ 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 会費収入	38,300	38,300		
② 地代収入	58,900			58,900
③ 委託料収入	35,370	35,370		
④ 広告料収入	2,800	2,800		
⑤ 寄付金収入	800	800		
⑥ 雑収入	1,469	1,469		
⑦ 共済金引当預金取崩	2,250	2,250		
⑧ 退職金引当預金取崩収入	12,143	12,143		
事業活動収入計	152,032	93,132	0	58,900
2 事業活動支出				
① 事業費支出	99,467	58,027	19,440	22,000
1 給料手当	20,517	8,177	12,340	
2 助成金	13,200	6,100	7,100	
3 通信運搬	7,200	7,200		
4 印刷製本	7,000	7,000		
5 租税公課	35,600	13,600		22,000
6 修繕	3,000	3,000		
7 その他	12,950	12,950		
② 管理費支出	34,635	34,635	0	0
事業活動支出計	134,102	92,662	19,440	22,000
事業活動収支差額	17,930	470	-19,440	36,900
Ⅱ 投資活動収支の部				
1 投資活動収入	0	0	0	0
2 投資活動支出	17,845	4,345	0	13,500
① 退職金引当預金支出	1,345	1,345		
② 保証金引当預金支出	13,500			13,500
③ 修繕積立預金	3,000	3,000		
投資活動収支差額	-17,845	-4,345	0	-13,500
Ⅲ 財務活動収支の部				
1 財務活動収入	0	0	0	0
2 財務活動支出	17,800	17,800	0	0
財務活動収支差額	-17,800	-17,800	0	0
Ⅳ 予備費	2,000	2,000	0	0
当期収支差額	-19,715	-23,675	-19,440	23,400
前期繰越収支差額	256,153			
次期繰越収支差額	236,438			

近畿・中国地方の代議員

近畿地方の代議員

近畿地方の代議員

副理事長紹介

副理事長　井口　武雄

昭和40年東京教育大学文学部法律政治学科卒。昭和40年大正海上火災保険株式会社入社。昭和56年賠償保険課長。平成２年火災新種保険部長。平成３年三井海上火災保険株式会社火災新種商品企画部長。平成５年取締役火災新種商品企画部長。平成６年常務取締役。平成８年取締役社長。平成12年最高経営責任者・取締役会長・取締役社長。平成13年三井住友火災保険株式会社取締役会長。平成18年退任。平成19年常任顧問（シニアアドバイザー）。

副理事長　岩﨑　庸男

昭和38年東京教育大学教育学部心理学科卒。昭和40年同大教育学研究科実験心理学修士課程修了、昭和43年同大教育学研究科博士課程満期退学（学術博士）。

昭和50年東京教育大学教育学部講師。昭和51年筑波大学心理学系助教授。昭和63年同大教授。心理学研究科長、心理学系長を経て、平成11年筑波大学企画調査室長。平成14年筑波大学副学長に就任。平成16年目白大学教授。平成18年同大理事、副学長。

委員会一覧（第２回理事会で決定）

◎委員長　○副委員長

		委　員（理事）	委　員（外部）	業務内容（今年度重点）
委員会	企画運営	◎井口武雄、（代行）岩﨑庸男、 ○田中正造、　宮尾　徹、　高野　力 佐藤　忍、　大勝信明	市川邦彦	役員選考、経費節減、増収対策
	財務・法務	◎宮尾　徹、○河本　武、○鵜澤　力	楢岡祥之、谷ケ久保友文	経費仕分け、見直し、会館利用
	組織	◎高野　力、○福岡一雄、○平野正美 西塚祐一、　西川綾子、　百瀬明宏	真当哲博、高橋基之 徳田安伸	支部（地域）、東京地区、 会員データ
	大学・つくば地域支援	◎佐藤　忍、○新井達郎、○庄司一子 西川　潔、　柴田　淳	大澤義明、長谷川聖修 與語靖洋、北澤徳之	学生支援、入会促進
	公益・広報等	◎大勝信明、○川田孝一、○北島瑞男 ○守屋正彦	清水進一、山脇俊彦 鶴巻勝夫、染谷信洋 神林　喬	公益事業、共益事業、広報
特別コミッティ	地代問題検討会議	◎井口武雄、　西野虎之介、高野　力 宮尾　徹、　田中正造		
	校友会対応会議	◎岩﨑庸男、　佐藤　忍、　田中正造 西川　潔、　新井達郎、　庄司一子		
	筑波事務所運営会議	◎佐藤　忍、　新井達郎、　庄司一子 柴田　淳	大澤義明、長谷川聖修 與語靖洋、北澤徳之他	
	法人対策室	◎田中正造、福岡一雄（アドバイザー）　法人職員		三法人独立問題、新法人への対応、 IT化推進

※ 阿江通良理事は所属委員会なし

四国・九州地方の代議員

中国・九州地方の代議員

近畿・中国地方の代議員

〝懇談会から〟

西野 虎之介　理事長

江田 昌佑　新理事長

平成24年5月24日(木)一般社団法人茗渓会第1回定時総会終了後、午後4時半から4階「筑波」の間で懇談会が行われた。

田中正造常務理事から開会が告げられ、総会での雰囲気とは一変し、久しぶりに出会った同窓同士の笑顔が見られる中でのスタートとなった。

最初に、西野理事長の挨拶があった。挨拶では、鵜川昇前理事長から引き継いでの6年間、そして今日の一般社団法人として移行するまで、多くの会員の協力があったことへの感謝が述べられ、会場からは、西野氏に対するこれまでの尽力と適切なリーダーシップに対して感謝の気持ちを表す盛大な拍手があった。

引き続いて、江田新理事長から挨拶と乾杯の音頭がとられた。これまでの副理事長や茗渓三法人財務審議会の分科会委員長としての実績とその経験を踏まえて新しい茗渓会トップとしての覚悟のほどが披瀝された。

代議員からのひとこと

懇談会の席上では、お互いにテーブルを囲んで、本日の総会の印象や各地域・職域からの新法人への期待等を代議員の皆さんがこもごも話していた。

- 総会には、ピーンと張り詰めた緊張感があった。
- 代議員のみなさんの迫力と新法人への期待感の大きさを感じた。
- 総会では、新体制の下で、これから〝やるぞ！〟という活気が伝わった。
- 本部と地域・職域と、より一層の連携強化を期待している。
- どのようにして会員を集めるか等、地域や職域の活性化のために本部との連携を一層密にしたい。
- 地域の会員同士の仲間意識を一層高めるために、地域・職域で新しい事業を行い始めた。
- 県内在住の会員にできる限り多く会合へ出席するよう、積極的に呼びかけたい。
- 地域会員の増加を目指していきたい。
- 季刊誌『茗渓』の春号に掲載されていたが、今後の支部の呼称は、これから役員と話し合う予定である。
- うちの地域では、臨時の役員会を開催し、「○○茗渓会」、支部長は、「会長」と呼称しようとの原案がでている。
- 学生時代はサッカー部にいた。江田先生が私たちのテーブルにきてラグビー部の学生と関わっていたことを聞いた。グランドが隣同士であっただけに親しみを感じた。

多くの代議員からいろいろな話が出たが、共通して「茗渓会」が大好きだということが感じられた。

懇談会は、終了予定の午後5時半を過ぎても続けられ、6時半過ぎ、宣揚歌を全員で高らかに歌って終了した。

江田新理事長が、「皆さん方と、力を合わせて新たなる方向を目指したい」と話されていたことや懇談会の各テーブルで出席者と親しく懇談されていた姿には、茗渓会が明治15年に発足し、また茗渓創基140年の伝統を誇る一般社団法人茗渓会の、トップとしての強い意志と仲間を大切にしようとする姿勢を感じた懇談会であった。

懇談会の会場風景

計算機の中に科学を見る

筑波大学山田信博学長は、季刊誌「茗溪」2012年正月号で「大震災を通して明らかになったように、多くの課題が山積みになっている現実を直視すれば、地球規模の課題解決のために、より積極的に貢献できるような大学システムのバージョンアップが求められています。」と述べている。

その一つに国際展開事業として筑波大学計算科学センター（以下、センターという。）の研究がある。

センターは、つくばエクスプレスの、つくば駅前から循環バスに乗り10分ほどで到着する。

５月末のバスの車窓からはJAXAのロケット塔が見え、キャンパス内にある“ゆりのき通り”“けやき通り”“すずかけ通り”に広がる緑いっぱいの木々に囲まれた場所が眺められる。

筑波大学は、日本百名山のひとつに数えられている標高877メートル筑波山の懐に抱かれた研究・教育の場にふさわしい場所にある。

世界に誇る筑波大学計算科学研究センターを訪ねて

筑波大学計算科学研究センターの本館は３０７５㎡で、センター長室や事務室が１階に在り、２～３階には20の研究室がある。別館は876㎡あり、室内には高さ約２ｍ、幅約1.5ｍほどの大きさのラックと呼ぶ長方形の箱がずらりと並んでいる。

ラックの中にはパソコン同様の機能を持ったノードと呼ばれるものがたくさん入っており、これが、「HA-PACS」等のスーパーコンピュータ（以下、スパコンという。）である。

部屋の中は、スパコンの音と冷却するモータ音が交錯して「ワーン、ワーン」と響いており、人の話し声も聞こえないほどであった。

センター長の佐藤三久教授を訪ねて、センターを紹介していただき、計算科学、多国間国際研究協力事業等について話していただいた。

センターのあゆみ

筑波大学は現在、開学40年を迎えようとしているが、１９８０年代から、物理の分野を中心に計算機を用いた研究が行われてきた。

１９９２年に計算物理学研究センターとして10年計画で設置された。

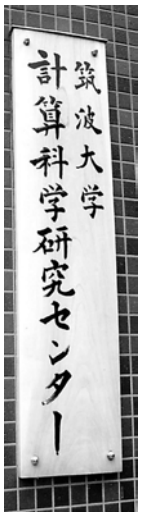
１９９６年には、スパコンCP-PACS（計算速度614億回／秒）が完成し、同年11月にスパコンＴＯＰ500世界第１位と認定された。

日本の科学技術の進化に大きく貢献すると共に素粒子研究、宇宙研究等の分野で大きな成果を上げてきている。

その後、２００４年４月に計算物理学研究センターを改組し、さらに大規模に発展させ設置されたのが、現在の計算科学研究センターである。

センターの紹介

佐藤センター長は「当センターは、科学の領域における超高速シミュレーション、大規模データ解析を中心とする研究や超高速計算機システム、超高速ネットワーク技術の開発等と情報技術の革新的な応用方法の研究を推進しています。」と話し始められた。



センター本館

コンピュータがある別館

センターは、80名あまりの教員・研究者等が、7部門の研究を行なっている。7つの研究部門の内訳は、「粒子物理」13名、「宇宙・原子核物理」16名、「量子物性」9名、「生命科学」5名、「地球環境」5名、「高性能計算システム」18名、「計算情報学」7名であり、事務職員が7名である。「教職員数等の多さと研究実績には、誇るべきものがあります。」とのことであった。

センター長 佐藤三久教授

佐藤センター長は、「当センターの大きな特徴は、具体的な計算科学研究と高速計算機の開発が、同じ組織の中で進められているということです。

さらに高性能なハードウエアの開発だけではなく、具体的に研究する理論を組み立て、その理論を効率よく計算するためのアプリケーションソフトを作って、計算科学の研究を進めています。その全てを一つの研究機関が行なっている組織は、世界的にもあまり例を見ないものであると自負しています。」

また、佐藤センター長は、当センターの研究は二つの点が重要だと力説された。

「一つは、大規模な計算資源を使いこなし、計算科学のフロンティアを開拓する研究で、この研究に積極的に取り組むことは特権であると共に、同時に義務でもあります。

もう一つは、計算科学と計算機科学、また、計算科学の諸分野との連携を活かす研究です。」

「当センターは、計算科学を新しい学際領域として『学際的な計算科学』を確立し、継続的に発展させていくために、広い視野に立った研究・教育の拠点を目指しています。」

「当センターは、これまで、次世代スパコンを開発する国家プロジェクトに協力してきました。

その結果、今年いっぱいには次世代スパコンが完成します。次世代スパコンの利用については、当センターは計算基礎科学分野の戦略拠点として期待されています。

すでに、次々世代のスパコンの研究・開発も本格的に始まろうとしています。

急速な科学進歩において、国内で当センターの果たす役割と期待は、ますます大きくなっています。」と、将来を見通した〝研究者〟佐藤三久教授の強い意志を感じさせる話しぶりであった。

第三の科学「計算科学」

コンピュータとは

まずは、コンピュータの計算原理は何かというお話。

「三つの部分から成り立っている。

一つ目は実際に計算をするＣＰＵ（中央処理装置）。

二つ目は筆算の時に数字をメモする「紙」にあたるメモリ（主記憶装置）で、入力されたデータや計算途中の値、計算結果を記憶します。

この記憶は、電源を切ると失われてしまいます。そのため三つ目として計算結果を記憶するストレージ（外部記憶装置）でハードディスク等に移して保存します。」

スーパーコンピュータとは

次は、内容的には難しい話。果たして理解できるのかと懸念しながらお聞きした。

「スパコンは、ＣＰＵがたくさん入っていて、一つの計算を分担して行います。これを並列処理といいます。並列処理のおかげで、パソコンでは何年もかかるような計算をスパコンでは1日で終わらせるといった『高速化』ができるのです。」

「みじかなわかりやすい例では、２００９年4月に当センターのスパコンで円周率を2兆5769億8037万桁まで計算できたことです。しかし、スパコンでのこの計算は、桁数の競争が目的ではなく、スパコンがトラブルなく働き、正しい計算を出してくれるかを確認することです。」

筑波大学のスパコンが、２００９年4月時点では、円周率計算世界1位であるという快挙に、同窓の一人として誇りを感じた。

計算科学とは

センターの真髄である『計算科学』は、第3の科学と言われている。その理由については―「これまでの科学は、理論と実験によって発展してきました。

しかし、実験が難しい現象や原理的なことはわかっていても〝紙と鉛筆〟だけでは理論計算ができない場合がたくさんあります。

このような難しい問題を、コンピュータを使って解明する方法が計算科学です。

スパコンや超高速インターネットを用い、大規模シミュレーションや大量のデータ解析によって研究を行う計算科学は、科学の全分野で、実験・観測、理論と並ぶ、第3の科学として重要であり、世界的にも最先端の研究手段となっているのです。

これからの科学技術の発展を目指して、基礎科学のフロンティアを開拓するシミュレーション、マクロな自然と人間社会の関わりのシミュレーションなどの分野における活用が期待されています。」

“世界一”の認定書

コンピュータの基本構造のモデル

多国間国際研究協力事業

次に、筑波大学の国際展開事業の一つである「多国間国際研究協力事業」について話された。

「この事業は、国際的で分野横断的な研究に対して、G8各国の学術振興機関が協力して研究資金の提供を行い、多国間の共同研究を推進する事業です。

3カ国以上の研究プロジェクトからなるコンソーシアム単位で採択するのが特徴です。

この事業は、2008年に京都で開催されたG8の学術支援機関長会議において提案され、日本、カナダ、フランス、ドイツ、ロシア、イギリス、アメリカの7カ国が参加して行うことになりました。

2010年度から5年間にわたり3回の公募を実施しており、採用期間は2～3年間です。

第1回の公募テーマは「エクサスケール・コンピューティング（スパコンが1秒間に10の18乗回の演算を行う）を視野に入れた地球規模課題のための応用ソフトに

スーパーコンピュータのモデル

関する学際的プログラム」であり、当センターも応募しました。」

世界各国から79件の応募があり、6件が採択され、そのうちの2件が筑波大学計算科学研究センターの二つの研究グループが担当します。

㈠「エクサスケール・コンピューティングによる精緻な気候シミュレーションの実現」が研究テーマで、佐藤三久センター長が代表者で、日本、アメリカ、フランス、ドイツ、スペイン、ロシアの6カ国の研究者が参加している。

エクサスケール・コンピューティングでは、超高解像度のモデルの導入や、より複雑な計算ができるようになり、より精度の高い気候変動予測が可能になることが期待されている。

このプロジェクトでは、日本のスパコンとして京速コンピュータ「京」、センターの「T2K-Tsukuba」等が使用されている。

佐藤センター長は「〝気候〟は全地球を対象にしますが〝気象〟は世界の中の日本とか関東など、日本の中にある地域が対象になります。」しかも「研究者に〝気象予報士〟はいないですね。」と、気候と気象の違いに気づかされた。

㈡「エクサスケール・コンピューティングによる核融合シミュレーション」が研究テーマで、朴　泰祐教授副センター長が代表者である。日本、イギリス、ドイツ、フランス、アメリカ、ロシアを含めた6カ国の研究者らと協力して研究を行なっている。核融合反応は恒星のエネルギー源であり、将来の生活エネルギー源として期待されている。

研究者を目指す筑波大学生にひとこと

訪問の最後に、これから研究者を目指す筑波大学の学生に、佐藤三久センター長からメッセージを頂いた。

「筑波大学は、朝永振一郎先生の研究実績をはじめとして伝統的に物理分野でリードしてきている。

現在では、日本のトップとして多くの研究者と素晴らしいスパコンを持っている数少ない大学である。

学生のみなさんには、大学のこの強い機能を活用してもらいたい。

また、これから科学を学びたいと考えている学生には、理論と実験・観察だけではなく、計算機のスキルを身につけて計算科学的手法を学ぶことを大切にしてもらいたい。

もう一つ、日本のスパコンの性能は、数少ない世界一の実力を持っています。計算科学とスパコンの研究者は高い研究実績を上げています。

是非、若い人に興味を持って挑戦してもらいたい。」

佐藤センター長は、２００９年11月に行われた「事業仕分け」の場に参加しており、事業に対するコスト意識も大切だが、人類に夢を与える研究を支援することが国家として大切であると科学者としての考えを述べておられた。

スパコンを中心とした第3の科学『計算科学』について多方面にわたって話された佐藤センター長はさらに『計算機の中に科学を見る』と、言葉を足された。

世界の研究者としての含蓄ある佐藤センター長の言葉が、心に強く残った、このたびの訪問であった。

窓の外に目をやると緑の若葉が太陽の照り返しを受けて眩しく映っていた。

今回の訪問にあたっては、倉持　聡主任専門職員のご協力をいただきました。

茗溪学園だより

GETプロジェクト2012

2年目となった今年度のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の諸活動＝「GETプロジェクト」は、新たな活動を加え、さらなる充実を目指して生徒教員一丸となって進めています。

コアSSHの指定も受ける

GETプロジェクトをより強化するため、特に「T」＝Tsukubaプログラムの内容となる「地域の中核的拠点形成」をねらった研究開発活動計画を策定し、コアSSHの指定を受けることができました。

設定したテーマは、「大学・地域と連携して育成する小学生・中学生・高校生の英語を交えた科学コミュニケーション力～インターナショナル・ジュニア・サイエンス・キャンプとAPサイエンスを通して～」というものです。これらは、筑波大学の協力のもと県内のSSH校との連携活動です。

IJSC International Junior Science Camp

今年度は、夏と冬に2回実施する計画です。宿泊（1泊2日）は本校学寮、科学実験は筑波大学の実験室で大学院生のサポートをいただきながら行います。つくば市などの小学生やインターナショナルスクールの児童が参加しますが、一緒に実験を進めていくのは、サイエンスコミュニケーターの役目を果たすべく訓練を積んだ高校生たちです。高校生たちは、小学生に実験の楽しさをしっかりと伝えられるように、事前の研修を重ねています。また、英語でのコミュニケーションも必要となるので、実験に加えて英語研修も行っています。

このIJSCは、本校が主催しますが、共催・筑波大学（生命環境学群・理工学群）、連携校・県内SSH校など5校、後援・つくば市教育委員会・常総市教育委員会となっています。

APサイエンス

APとはAdvanced Placementの頭文字で、アメリカで行われている大学の単位を高校生が取得できるカリキュラムです。本校は、SATのテストセンターとなっているので、簡単な手続きでAPテストも校内で受検できるようになりました。APサイエンスと銘打って、大学レベルの高度な学習、もちろん英語での学習ですが、これに挑戦するものです。来年5月の試験に向けて攻略方法を、他校の生徒達と協力し合って研究していきます。

「探究講座」高1に新設

高校・新カリキュラム

今年度より高校カリキュラムを改訂しました。理科の基礎科目は3科目とも高校1年次に配置しました。さらに、「探究講座」（1単位）を学校設定科目として新設し、高校2年次の「個人課題研究・SS研究」に繋ぐ学習活動としました。様々な分野の研究例や研究方法を学び、それぞれの生徒が、自分に合った研究テーマと研究方法を設定できるように導くものです。3週で1講座が構成され、分野別ガイダンス（20分野）、分野別入門講座（35講座）、分野別専門講座（29講座）と3段階で進んでいきます。各人の研究テーマ決定は12月という道筋です。現在（7月）は、第2段階の1期目に当たり、言語学入門、歴史学入門、物理学入門、スポーツ科学研究、透視図法入門、英文学・欧米文化などの講座が設けられています。

上海での国際研究発表交流会

この研究発表交流会は、中国上海市の位育中学（日本の高校相当）の国際部（英語で授業を行っているセクション）の生徒と、英語でプレゼンテーション、ディスカッションをするものです。3月に実施しましたが、3回目となった今回はSSH活動として内容の充実を図りました。本校からの派遣者は、個人課題研究（SS研究）の要旨を英文にして英語でプレゼンテーションを行った生徒の中から優秀者4名を選びました。選考に当たっては、研究内容のみならずテーマが国際的に通用するものか、英語によるプレゼンテーションのスキルが高いかどうかという視点で行いました。

4人のプレゼンテーションに対して位育中学の生徒からたくさんの質問が出されました。位育中学の生徒たちの積極性や英語力に圧倒されつつも、すべての質問に対して返答し、英語を実際に使って議論することの難しさや楽しさを実感したようです。位育中学の生徒の研究発表はどれも専門的でレベルが高く、難しい部分もありましたが、本校生徒も果敢に質問し、活発な議論が展開されました。海外の同世代の人たちのエネルギッシュな姿勢と対峙した体験は、これからの国際社会の中で活躍していくうえで貴重な経験になったものと思います。

IJSC 筑波大学で実験の事前研修

英語でのプレゼン　上海・位育中学

高校ラグビー全国選抜ベスト8

高校ラグビー部は、3月下旬から4月にかけて開催された第13回全国高校選抜ラグビー大会において、8強入りを果たしました。初戦に大雨強風の悪天候の中、大逆転でシード校を破り、勢いに乗ってその後も勝ち上がりました。積極的な展開ラグビーに注目が集まりました。

他の部活も、インターハイの県予選を勝ち上がり、北信越で開催されるインターハイ出場を果たしています。

この夏、インターハイ出場を決めた部は、次の通りです。テニス部（男子シングルスとダブルス）、体操部（男子個人に2名）中学ラグビー部も全国中学大会（9月水戸開催）への出場を果たしました。